

微生物の力ちからで野菜の細菌性病害を防除

野菜花き試験場

野菜の細菌性病害は、時に大発生して大きな被害をもたらす、有効な化学合成農薬が少ないため安定生産の障害になっています。

野菜花き試験場では、これらの病害に対して防除効果を発揮する有用細菌（シュードモナス・フルオレッセンス）を発見し、生物農薬として開発に成功しました（商品名：ベジキーパー水和剤）。この細菌は、もともとレタスの葉に生息しているので、環境にやさしい防除が可能です。

1 ベジキーパー水和剤で防除できる病害

レタス・非結球レタスの腐敗病、キャベツ・ハクサイ・ブロッコリーの黒腐病、ブロッコリーの花蕾腐敗病に適用登録があります（平成23年9月現在）。発病前～発病初期の散布により効果を発揮します。



レタス腐敗病



キャベツ黒腐病



ブロッコリー花蕾腐敗病

2 効果の仕組み

ベジキーパー水和剤には殺菌効果がありませんが、散布により植物体上に優先的に定着し、病原菌の増殖を抑制します。その結果、防除効果が得られると考えられます。

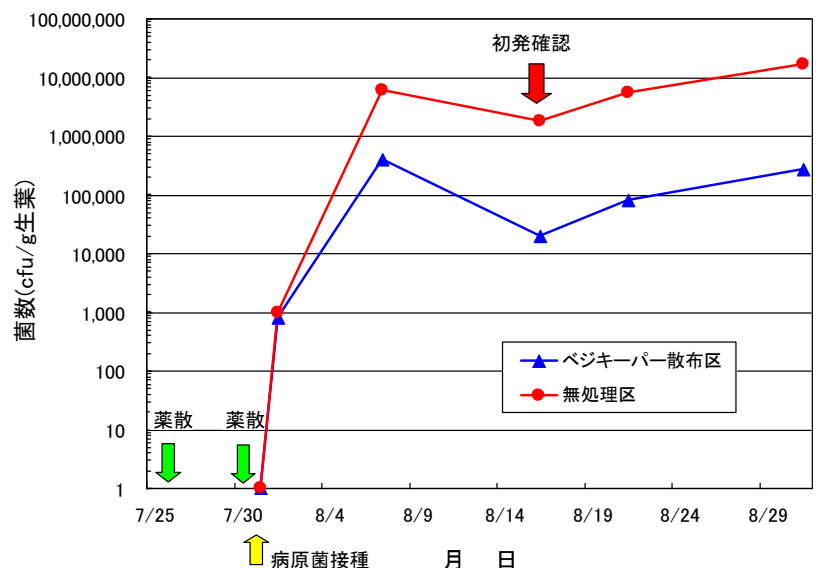


図 ベジキーパー水和剤散布によるキャベツ黒腐病菌の増殖抑制効果